第２回　グループ会議（環境分野）　議事骨子

開催日時	平成１８年 12 月 21 日（木）13:00～16:00
開催場所	和歌山県民文化会館　405 会議室
出席者	委員７人、河川管理者等７人

環境分野の第２回グループ会議が開催され、熊野川流域の課題とその課題に対する意見について審議が行われた。検討会の議事骨子は以下のようである。

１．「（仮称）流域のまとめ」の作成について

・「（仮称）流域のまとめ」（以後「流域のまとめ」とする）の作成に向けて、次回検討会において構成内容や熊野川のあり方について審議する。
・「流域のまとめ」の作成にあたっては、庶務が懇談会の指導の下で作業にあたる。

２．流域の課題に対する意見について

各委員の発表内容（会議資料１参照）に加えて，以下の意見が述べられた。

＜自然環境分野＞

１．水量・水質
- 発電ダムをどう位置づけできるかについては、治水・利水 G との調整が必要である。
- キーワードとして維持流量も重要である。

２．生態系
- 語る会などの意見で、元はこうであったとの意見があるが、熊野川も変化していく。今の熊野川をどうしていくかが重要である。
- 熊野川においてここ２年は洪水が無いためブラックバスが完全に繁殖している。下流ではテナガエビが少なくなったと聞く。ブラックバスの影響ではないか。
- 猿谷でもバス釣設備が整備されつつある。きちんと法的に規制する必要があるのではないか。

＜地域振興について＞
- 棚田や高齢者問題などに河川管理者がどのようにコミットするのか考える必要がある。
- 棚田の問題などは河川管理者にお願いしても対応が難しい。農林水産省、通産省、県に頼む必要がある。
- 地域振興をどう流域のまとめに取り込んでいくかは、非常に難しい問題であるが、例としては国交省、電発、市町村、環境省が第 3 機関を立ち上げ上流域対策を行うことが考えられる。

＜歴史・文化について＞
- 熊野川では歴史・文化を河川整備の重要な柱として位置づけられないか。
- 熊野川の文化を理解するための施設が整備されていない。
- 明治 22 年の河川形状を調査して、当時の川の復元を考えてみてはどうか。(発掘調査の実施等)
- 熊野川の歴史・文化を伝える手段としては「熊野川文庫」の作成がある。一般から記事を募集し写真と併せて文庫本サイズに製本する。文庫は長く世に伝えることが可能であり、熊野川の PR にも繋がる。

＜景観について＞
- 御船島近くの揚水場については、周囲の景観に対して違和感を感じる。
- ジェット船乗場は、景観面の工夫が必要である。
- 熊野川流域の山林においては単一な植生が景観面でネックとなっている。

＜維持管理について＞
- 「河川の持つ自然的な機能の保全」の項目は、環境（生態系）の項目に入れること。
- 伐採跡地の放置林が増加している。何らかの補助があれば山林は改善できる。
- 維持管理については様々な分野に重なるため、項目として取り上げるのか検討が必要である。

３．その他

・　治水・利水グループの了解を得た上で、1 月 17 日に検討会が開催出来るよう調整を行う。